

平成22年度 教師海外研修 研修報告書

派遣国：カンボジア

学校名：横浜市立宮谷小学校

担当教科：_____

氏名：清川 直美

1. 今回の研修における目的やねらい

第4回アフリカ開発会議を契機に、横浜市で取り組まれていた「一校一国運動」の校内担当者を2年間務めました。活動を通し、子どもたちは相手国の文化や産業について理解するものの、日本との関わりやアフリカのために何が出来るか考え、活動を継続していくことは難しいという課題が毎回残りました。

そこで今回の研修を通して、私自身が現地の生活に触れることで、「開発途上国の現状を捉え、日本との関わりや国際協力とは何か理解を深め、子どもたちにカンボジアの文化や生活習慣について伝え、カンボジアについて理解させる。その上で、現状の生活を見つめ直し、自分たちにできる国際協力について考えさせること」が最大の目的でした。

さらに、日本とカンボジア両国の文化の相互理解を深めた児童に、外国語活動における異文化理解の育成を主に置いた授業実践に取り組んでいきたいと思っています。

2. 目的やねらいがどのくらい達成されたか

カンボジアの人々の生活様式や学校生活などの様子は、概ね写真やビデオに収めることができました。「日本にいながら、今の自分たちにできることは何か」について子どもたちと考える上でのキーワードは、「カンボジアで活躍する日本人」ではないかと思いました。既に現地で活躍されている方々の軌跡を辿るだけでなく、その思いや願いを伝えることにより、生きた教材として子どもたちに提供し、子どもたちの考えを広げていく礎になるのではないかと考えています。

また、外国語活動における異文化理解の育成を主に置いた授業を構築する際、子どもたちにとって身近で興味・関心が感じられる題材を教材とすることが、授業を進める上での大きな鍵となると考えられます。今回の研修で得られた資料から自分なりに精選して、授業を構築していこうと思っています。

3. カンボジア国から学んだこと

内戦が終結し、政治的安定が達成され、経済も長い時をかけた徐々に回復してきているカンボジアに、日本と同じように格差社会が広がっている現状に驚きました。カンボジアの基幹産業は就業人口の7割を占める農業です。他に中核となる産業も育たず、物理的インフラの整備、法の体制の確立、透明性のある行政運営等、依然として課題が多いために、今後の大きな経済発展は望めないと言われていています。これでは、今後益々格差社会が広がっていくように感じられます。

広がりつつある貧困削減のためにも、ドナー各国からの援助が不可欠である現状があると思います。しかし、今回訪れた小学校教員養成学校で小松先生のお話を伺い、善意が不用品を生むこともある現実を知り、援助の真の意味について考えさせられました。「援助」と聞くと現地の人々の生活が改善され、よいことのように一般的には捉えられると思います。しかし、決して自己満足で終わるものでなく、実際の現場を見たり現地の人々の声を聞いたりするなかで、当事者意識をもって援助することの大切さを学び得ました。

4．今回の研修経験をどのように教育活動に活用しようと思っているか

横浜市では現在外国語活動を通して、以下のような子どもの育成をねらっています。多様な文化について、「違い」を「違い」として認識する態度や相互に共通している点を見つけようとする態度が身に付いている。

世界の様々な状況や、世界の中での自国の状況に目を向けようとしている。

このようなねらいを達成させるために、小中学校の9年間かけて育むことが求められています。そのために、好奇心旺盛な小学校低学年から共生の意識を緩やかに着実に育成していくことが、ねらいを達成する上で重要だと考えられています。そこで、外国語活動において今回の研修を通して体験したことを生かし、授業を展開していきたいと思います。

また、総合的な学習の時間や国際理解教育を進めていく上で、子どもたちにこれまでと違った観点から新たな視点を当て、理解を深めさせていくことができたらと考えています。

5．今回の研修に参加してよかったことや、よりよくするための提案

観光では決して行けないような場所を訪れたり、様々な人と出会ったり、貴重な体験をすることができました。また、普段は援助や開発教育といったことを考える機会があまりないのですが、今回参加者のみなさんや訪問先で出会った人々と、そのような角度から話をすることができ、大変有意義な日々を過ごすことができたと思います。

また、理科教育改善計画プロジェクト訪問後、実際に現地の先生方とお話する機会がありました。そこで、先生方の教育観や今の教育に対する悩みをお聞きすることができました。国が異なっても、教育に対する思いが同じことを知り、大変有意義な時となりました。

6．その他研修全般を通じた感想・意見など

私は学生時代に一度、カンボジアに観光を目的に訪れたことがあります。あれから、約10年の歳月が過ぎたのですが、この国の緩やかな中でも確実な成長を10日間という限られた期間ではありましたが、垣間見た気がします。観光でなく現地の様々なNGOやコミュニティーを通しこの国を見つめ直してみると、様々なことが見えてきて多くのことを考えさせられました。

グローバル化が進み、幼い頃から国際人としての意識が求められるようになってきた昨今、どの学校現場でも様々な角度から試行錯誤しつつ、国際理解教育を展開していると思います。子どもたちを指導する教諭として日本を外から見つめ直し、また普段出会うことができない他国で活躍する日本人や現地の人々との触れ合いは、今後の国際理解教育を進める上での新たな視野を広げてくれるものとなりました。

今回このような貴重な機会を提供して下さったJICA関係者の方々をはじめとし、お世話になった多くの方々には、心から感謝いたします。最後になりましたが、本当にどうもありがとうございました。

7．今後の本研修参加者へのアドバイス等

事前研修などで、開発教育の進め方や切り口となるための様々なアイデアを得ることができると思います。しかし、夏季休暇前の限られた授業時数の中ですので、計画性をもって事前準備に取り組まれるとよいと思います。

子どもたちとの話し合いを通し、「これだけは聞きたい」ということを、訪問先ごとに整理しておく、先方との意見交流や帰国後の授業実践が実りあるものになると感じました。